

柴田小学校と千鳥小学校 及び 白水小学校の統合について



令和7年7月 名古屋市教育委員会

令和7年6月に、柴田小・千鳥小・白水小の統合に向けた説明会を開催し、6日間で93人の方にご参加いただきました。
説明会での質疑やアンケートでいただいたご意見・ご質問について、教育委員会の考え方をまとめましたので、お知らせします。

※ より詳しい内容は、名古屋市公式ウェブサイトから「おたより(詳報)」をご覧ください。

統合案について

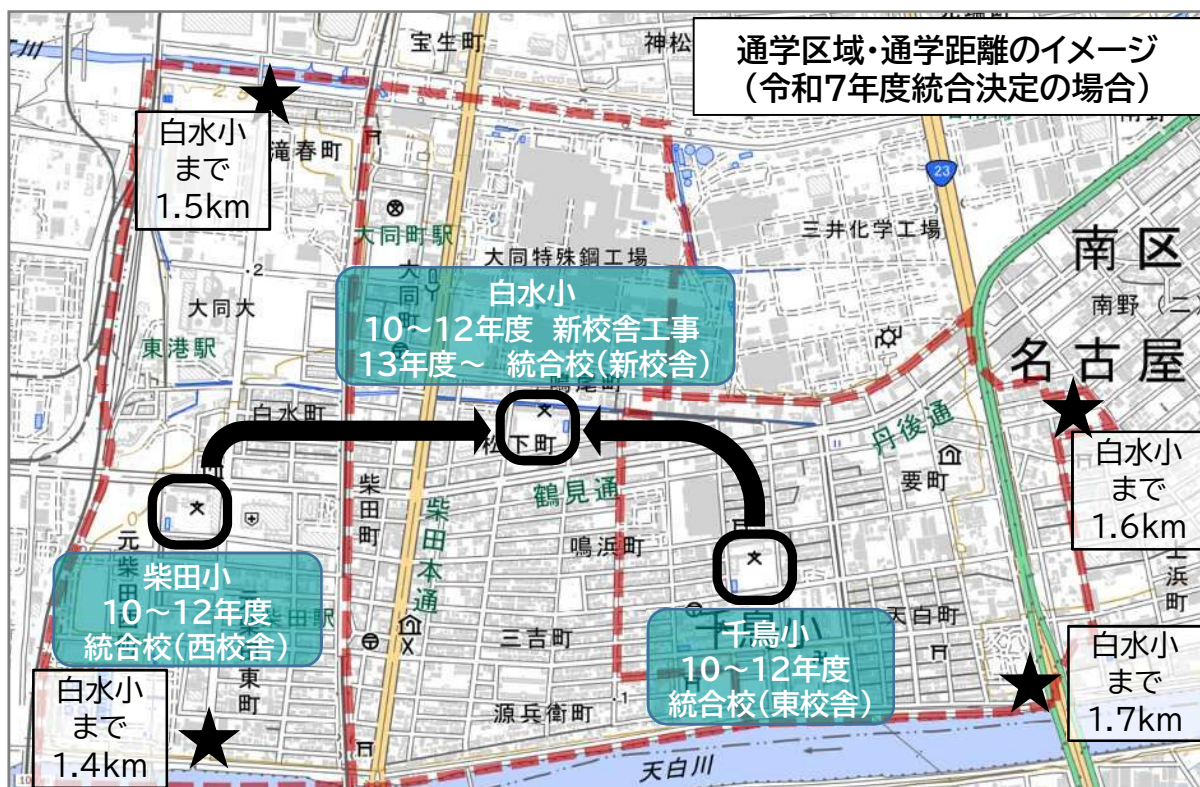
小規模校化が継続する柴田小学校及び千鳥小学校と、
学区が隣接している白水小学校を統合します。

通学先等 (令和7年度統合決定の場合)

▼ 令和10年4月 統合校開校(東校舎・西校舎)

▼ 令和13年4月
新校舎完成

区分	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度	令和13年度
柴田学区児童の通学先	柴田小へ通学		統合校西校舎(柴田小の場所)へ通学			統合校新校舎 (白水小の場所)へ通学
千鳥学区児童の通学先	千鳥小へ通学		統合校東校舎(千鳥小の場所)へ通学			
白水学区児童の通学先	白水小へ通学		原則、統合校東校舎(千鳥小の場所)へ通学			



※この地図は、地理院地図(GSI Maps)を名古屋市教育委員会教育環境整備課が加工して作成したものです。

1 統合の方針

Q 私たちの時代は非常に多くの同級生がおり、今でも交流があります。こうした多くの友だちづくりができる環境づくりをはじめとして、子ども中心に考えてほしいです。

A 児童数が多かった昭和54年において、柴田小学校は15クラス、千鳥小学校は19クラス、白水小学校は19クラスありました。

今の子どもたちにとっても、クラス替えができる望ましい学校規模を確保するため、取り組みを進めてまいりたいと考えています。

Q 必ずしも望ましい規模の学校がよいとは思えません。

A 子どもの数が少ない小規模校では、学校行事ですべての子どもに活動の場を与えやすい点、一人ひとりの子どもにきめの細かい指導がしやすい点などの良い面があります。

しかし、クラス替えができないことにより、人間関係が6年間固定化してしまう点、トラブルがあった際も環境を変えることが困難な点、子ども同士が切磋琢磨するような教育活動ができない点のほか、学校行事や多人数で行うスポーツ等に制約が出てしまう点などの課題があります。

統合により、クラス替えができる望ましい規模を確保することで、こうした課題を解消していきたいと考え、取り組みを進めていますので、何卒ご理解をいただきたく存じます。

2 通学の安心・安全

Q 熱中症対策として、日傘や保冷剤などの対策はすぐにできるのではないのでしょうか。

A 日傘や、首を冷やすタオルやリング等の冷却グッズについて、学校では現在も使用を禁止とはしていませんので、暑い時期はご利用いただくことで、熱中症のリスク軽減につながると考えています。

Q スクールバスでの通学について、1つの選択肢として考えてほしいです。
また、市バスの回送バスが通っているので利用できないのでしょうか。

A 市内では、2kmを超えて徒歩で通学している小学校もあることから、最長通学距離が1.7kmの見込みであるこの統合案において、特別にスクールバスの導入、回送バスの利用を行うことは非常に難しいと考えます。他の対策により、交通事故や熱中症のリスクを軽減するよう努めてまいりますので、ご理解いただきますようお願いします。

Q 説明会を聞いていて、まだ不安が払拭されていないと感じます。新聞記事では、小学校での冷凍庫の配備などが載っていました。新しい案はないのでしょうか。

A 通学の安心・安全について、市内の学校で取り組んでいる多様な事例を参考に、この3校に合った形に改善しながら取り入れていくだけでなく、例えば、ご意見いただきました冷凍庫の配備のような、これまで取り入れていなかった新たな対応ができないか、検討を進めてまいります。

3 新しい学校づくり

Q 学区内を見ていると、具体的に危険とを感じる場所があります。統合前に、通学の安全に関して地域を交えて検討をしてほしいです。

A 統合前の約2年間で行う新しい学校づくり懇談会にて、地域の代表の方などと共に、具体的な通学路や通学の安全対策などについて協議させていただきます。なお、懇談会の検討内容はおたよりという形で周知させていただきます。

4 東西校舎に分かれての運営

Q 東西校舎に分かれるときのクラス分けは、元の学校は関係なく編成しますか。また、先生は新しい先生ばかりになるのでしょうか。

A 東西校舎に分かれるときは、どの学区出身の子どもも、白水学区の子どもも、安心して学校生活がスタートできることが大事だと考えますので、学区ごとで偏ることなく、バランスよくクラス編成することを想定しています。

また、東西校舎に分かれたとき、新校舎ができたときに、知っている先生が誰もいないのは子どもにとって心の負担が大きくなると考えます。統合前の先生がバランスよく配置されるなど子どもたちが安心できるような人事配置を検討していきたいと考えています。

Q 新校舎が完成したとき、もともと白水学区と千鳥学区の子どもたちのコミュニティができているところに、後から柴田学区の子どもたちが入ることになると、コミュニティの再形成がきちんとできるのか心配です。

A これまでの統合校では、統合前に、学年ごとにレクリエーションをしたり、5年生では中津川野外学習に出掛けたりといった交流活動を行っています。

また、令和8年度に統合する学校では、交流活動を実施前に、スクールカウンセラーが講師となり、新しい友達とどのようにしたら仲良くなれるかという授業を行っています。

こうした例を参考にしながら、東西校舎に分かれるとき、新校舎に集まるときの両方で、子どもたちが安心して新しい生活に馴染めるような取り組みを行っていきます。

5 施設整備

Q 白水小学校の場所で3年間ほど工事をすると思いますが、その間の避難所はどのようになりますか。

A 敷地全面を使つての建て替え工事を行いますので、工事期間中は指定避難所や指定緊急避難場所としての利用ができなくなります。工事期間中に白水小学校周辺の方が避難する場所については、工事が始まるまでに対応を検討のうえ、地域のみなさまへお知らせいたします。

6 跡地活用・地域活動

Q 子どもたちの集う学校ですが、同時に避難所であったり地域の重要なコミュニティであったりします。そういった要望も考えながら、最終的に活用方法を決めてもらうことになるのでしょうか。

また、体育館や校舎、グラウンドはそのまま残るのでしょうか。

A これまでの学校跡地は、いずれも指定避難所としての機能を維持して活用しています。地域のコミュニティという面では、例えば、民間企業と賃貸借契約を行う際に、地域団体が主催する諸行事での利用時は無償で使用させることといった条件を付しています。

柴田小学校、千鳥小学校の活用方法については、今後開催する新しい学校づくり懇談会などの場を通じて、地域の方のご意見も伺って検討を進めていきたいと考えています。

また、元の学校の校舎等については、建物を残して私立の学校として利用している事例や、建物を壊して区役所として利用している事例など、活用用途によって様々でございますので、今後、こういった用途で利用されていくかを踏まえ、校舎等を残すのか検討してまいります。

7 その他

Q 3校が1校になると、校長先生や教頭先生など、先生の人数が減ると思いますが、先生が減ったとしても、子どもたちのために十分な体制で学校運営をしてほしいです。

A ご指摘のとおり、白水小学校の場所での統合後は、校長、教頭はそれぞれ一人ずつとなります。一方で、3校の時と比べると、1校あたりの教員数はクラス数が増えることに伴って増加し、より多くの教員と関わり合いながら子どもたちが学校生活を送るようになります。

また、統合後には、環境の変化に伴う子どもたちの不安を解消するため、スクールカウンセラーを通常より多く配置する予定です。

Q 取り組みの内容や、説明会での質疑などが市民に公開されるとよいと思います。また、インターネットから意見を伝えることができるとよいです。

A 本市ウェブサイトにて、地域説明会の資料や質疑のほか、これまで地域へお配りしてきた資料等を掲載していますので、ご覧いただければと思います。

ご意見につきましては、メールまたは本市ウェブサイト内のお問い合わせフォームからいただくことが可能です。メールアドレスやウェブサイトのURLは、本資料の下部をご覧ください。

お問い合わせ先等

名古屋市教育委員会事務局
教育環境整備課

電話:052-972-3282 FAX:052-972-4176
E-MAIL:a3282@kyoiku.city.nagoya.lg.jp

名古屋市公式ウェブサイト

「柴田小・千鳥小・白水小における
取り組み」のページ

統合に関する情報、説明会資料、おたより(詳報)などを掲載しています。

